

令和6年度 いのちの授業 事例集（中学校）【社会】

掲載数

15

地区	学年	教科等	テーマ	内容	参考事項（講師・教材等）
1 川崎市	中3	社会	人権尊重教育	川崎市では11月20日を「かわさき子ども権利の日」と定め、その週に人権に関わる授業を行っている。今回は、ピンクシャツデー運動を題材にいじめ防止についての国際的な取り組みを学習し、理解を深めることができた。また、「かわさき共生*共育プログラム」のエクササイズにある「権利の山」を活用して、川崎市子どもの権利に関する条例に記されている権利に対する関心を高めることができた。	本校職員
2 相模原市	中3	社会	ファシズム	世界恐慌下において、ドイツのヒトラーがドイツ民族の優秀さを強調するために、ユダヤ人を迫害した。ユダヤ人をアウシュビッツ収容所に収容し、残虐な行為を行った。そこでの行為を知ったり、ユダヤ人の写真をみたり、言葉を聞いたり、現実を目の当たりにすることで、いのちとは何か、考えることができた。	教科書「中学校の歴史」
3 相模原市	中2	社会	防災	単元「日本の諸地域」において、東日本大震災や阪神・淡路大震災などを通して、自分や家族、大切な存在を守るために必要なこと・大切なことを学んだ。	
4 相模原市	中3	社会	基本的人権	授業内で、7月から人権の歴史について学ばせ、人の有している権利とは何か、自分なりに考える時間となるように、人権作文を書かせてまとめる時間を設けた。 また、日本国憲法や西洋の憲法からも人権を考えた。それがどのような歴史を生み出すことになったのかを個人だけではなく、班員、またクラス全体で考える時間をとり、今の自分たちの人権が守られていることについて深く考える時間を作った。	社会 「中学生の公民 ～よりよい社会を目指して～」 (帝国書院)
5 相模原市	中3	社会	尊厳死と安楽死	自己決定権のあり方を考えるうえで「尊厳死」と「安楽死」の違いについて学ぶ。自己決定権があることを踏まえて、どちらも認めるべきなのか、どちらも認めないべきなのか、片方なら認めるべきなのか考え、意見交換をし合う授業を行った。尊厳死ならば認めてもいいのではという意見が多かった印象である。人生の最後は、その人の意思を尊重して見送ってあげたいという意見や、「尊厳死」「安楽死」を実行した後に新たな医療技術が発見されたら残された親族はとてつもない後悔の念に駆られるなど、命について様々な観点から考えていた。	帝国書院 公民
6 湘南三浦	中3	社会	司法権と人権保障	日本国憲法のもとで、司法権（裁判）は人権が侵害されないよう慎重に行使されるように設計されていることを理解するとともに、それにも関わらず、袴田事件に象徴されるように深刻な人権侵害が発生していることを知ることで、国家権力による生命の抑圧に関心を高める。	

7	湘南三浦	中1	社会	アフリカの自然 観光と歴史	アパルトヘイトミュージアムを題材に、ヨーロッパの植民地支配が行われていたことや、アフリカ大陸の奴隷貿易などを関連付け、なぜ奴隷貿易が行われたのか、なぜヨーロッパはアフリカを植民地支配したのか、などを考えさせ、今の生活と当時のアフリカの生活を比較して、人権についての理解を深める。	
8	湘南三浦	中1	社会	アフリカが抱える課題とその取り組み	アフリカの不安定な経済からくる食料不足、栄養不足、マラリアやエイズなどの病気によって亡くなる人々について学び、自分たちの生活についてふりかえり、いのちを大切にすることについて考えさせた。	
9	湘南三浦	中2	社会	国際理解 生命の尊さ	現在、イスラエルと周辺のアラブ諸国との戦争が続いている。この戦争が宗教・民族・欧米諸国の介入などにより複雑化・長期化しており人間の命がいとも簡単に失われている状況を認識した。 一方で、外務省の命令に背き目の前の人命を救うことを選んだ杉原千畝氏の決断と、それまでの苦悩を、特別ドラマを通して学ぶ。 国家同士の長期にわたる戦争状況と杉原千畝氏の決断を対比することで、人間一人の意思が変えることのできる運命の大きさと、その力が一人ひとりに宿っていることに気づかせた。	<よみうりテレビ> 日本のシンドラー杉原千畝物語 六千人の命のビザ <東京書籍> 新訂新しい道徳2 17 垣根をこえて <帝国書院> 中学校の歴史 第4節 第二次世界大戦の惨禍
10	湘南三浦	中3	社会	戦争と平和	修学旅行で広島（平和記念公園）を訪れるにあたり、事前学習として広島近隣にある被爆遺構について調べ学習をした。戦争の悲惨さ、平和の大切さについて改めて学習を進めた。	
11	県央	中3	社会	新しい人権 自己決定権	「尊厳死」を認める法律を定めることについて賛成か反対かを考えるという活動を行った。海外で尊厳死を認めている国の事例を紹介しながら、自身の考えを深められるような授業を行った、生徒は、命の重さや死、自分で自分の生き方を決めるということを考えていた。	東京書籍 「新しい公民」
12	県央	中1	社会	アフリカ州の抱える課題	小学校から校種が変わり、学校内外において様々な人と関わっていく機会が増えていく中で、世界の様々な諸地域の抱える課題についての学習を通して、これからの社会を担う生徒の育成を軸に授業を行ってきた。中でも本単元では、アフリカ州の抱える貧困問題や経済格差問題について学習した。アフリカ州はモノカルチャー経済により、慢性的な経済的な困難を抱える国が多く、そこから派生して“いのち”の危機に瀕している人も多い。そうした国に対して、個人としてどのような支援ができるのか、また日本に住む一員としてどのような支援に協力していくことができるのか、個人で考える時間と、共有して小グループで検討する活動を行った。	
13	県西	中1	社会	第2章 世界の諸地域	地理的分野の「世界の諸地域、アジア州」の単元で、「人口問題」を取り上げる際、過密地域での生活環境の悪化（スラムの形成や衛生問題）や、過疎地域での医療・福祉の不足が命に関わることについて考えた。日本とは違う生活の不便さや、同世代が命の危険と隣り合わせになりながら生活していることを知り、自分たちにできることは何か、そして何を考えて生活すべきかを議論し、共有した。	・『新しい社会 地理』（東京書籍） ・『中学校社会科地図』（帝国書院）

14	県西	中2	社会	ヒロシマ	4月から1月まで社会科の授業の中で「ヒロシマノート」を基にヒロシマの実相に迫り核廃絶の心を育てることを目的に取り組み、10月の学習発表会で学年として「群読」に取り組んだ。	「ヒロシマノート」 群読台本
15	県西	中1	社会	アフリカの貧困と開発	アフリカ中央部などで乳幼児死亡率が高いことを資料から読み取り、貧困の克服のために国際社会がどんな援助を行っているか、具体的な事例として、南スーダンで医療活動に従事する「国境なき医師団」の取り組みを映像資料やインタビュー記事から学んだ。	映像資料 「国境なき医師団」 (youtube動画を視聴)